

法遍寺 から大切な 皆様へ

2020年3月1日

日蓮正宗 年間方針

御命題達成の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

人材育成と折伏実践

年間実践テーマ

①勤行・唱題で歡喜の実践

境涯開く御題目を
正しい姿勢で実践

②異体同心の折伏で

広布へ前進

僧俗和合

講中一結

③御講と登山の推進で

人材育成

罪障消滅

一生成仏

〒488-0881

愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1

(TEL:0561-54-9226)

相談無料



2020年2月9日の御報恩御講の様子



慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について

住職 近藤道正

法遍寺は、静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日顕上人が開基となって、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人の出世の本懐である三大秘法の大御本尊に帰依(きえ)し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

① 講中のみなさまへ

4月28日は日蓮大聖人の「立宗宣言」の日です。建長5年のこの日、大聖人は今後の法難によって、我が身命に及ぶことを御覚悟の上に、法華経の御心を説かれました。すべて民衆の成仏の道を万年に開かしめんがためです。大聖人は『四条金吾殿御返事』に、「日蓮は少(わか)きより今生の祈りなし」(御書1179頁)と仰せです。現世において自身の利益を追う祈りはなく、真実の仏道を示し、民衆を救うことだけが本意であると。これが仏様の御心です。「現世安穩・後生善処」との経文の意は、現世の今において仏道を確立させることを主眼とし、その結果として後生の菩提が存することを示しています。真剣なる勤行と唱題、世間に流されない折伏の実践の中に大聖人の御心は宿ります。誓願たる折伏目標を皆の力で達成させましょう。

② 創価学会に籍を置くみなさまへ ～学会指導の変遷ぶり～

池田大作氏が監修したとする「仏教哲学大辞典」には、創価学会の存立の意義や目的、歴史などが縷々述べられています。とりわけ「登山会の意義」については、「総本山大石寺にまします一閻浮提總与の大御本尊にお目通りできることである。(中略)御内拝として日蓮正宗の信者にのみ御開扉が許されるのである。この日蓮大聖人の出世の本懐である弘安2年10月12日御図顕の大御本尊、本門戒壇の大御本尊にお目通りして、自分自身の罪障消滅を願い、所願満足することを祈念し、また、広宣流布大願成就を願うのである。ゆえに創価学会の行事の中ですべての行事に優先して行なわれるのが登山会である。(仏哲4巻239頁)とあります。日蓮正宗信仰の原点を知るべく法遍寺をお訪ねください。

③ 信仰の必要を認めない人へ

私たちの生活の周囲には、科学の力によって得られる幸福度が大きな部分を占めていることも否定はできません。しかし、科学の力には限りがあります。何故かといえば、科学の出発点は、私たちの生命の外界の現象を研究することにあるからです。外界をいくら究めても、生命自体の内面的悩みの世界は手のつけようがありません。むさぼり、いかり、嫉妬、うつ。ましてや「死」に関する問題。仏法は生命の内面の世界へ真理を求め、生きる尊厳を与えます。自分というものがはっきりしていなければ、本当の幸福は分からないのです。不幸の生まれる原因を知れば幸福になれるのです。ここに仏法の必要があり、出発点があります。ここ法遍寺においてください。